

ソーシャルインテリジェンスによる 社会の変容

2014-10-03 橋田浩一



東京大学大学院情報理工学系研究科

ソーシャルICT研究センター

Social Intelligence

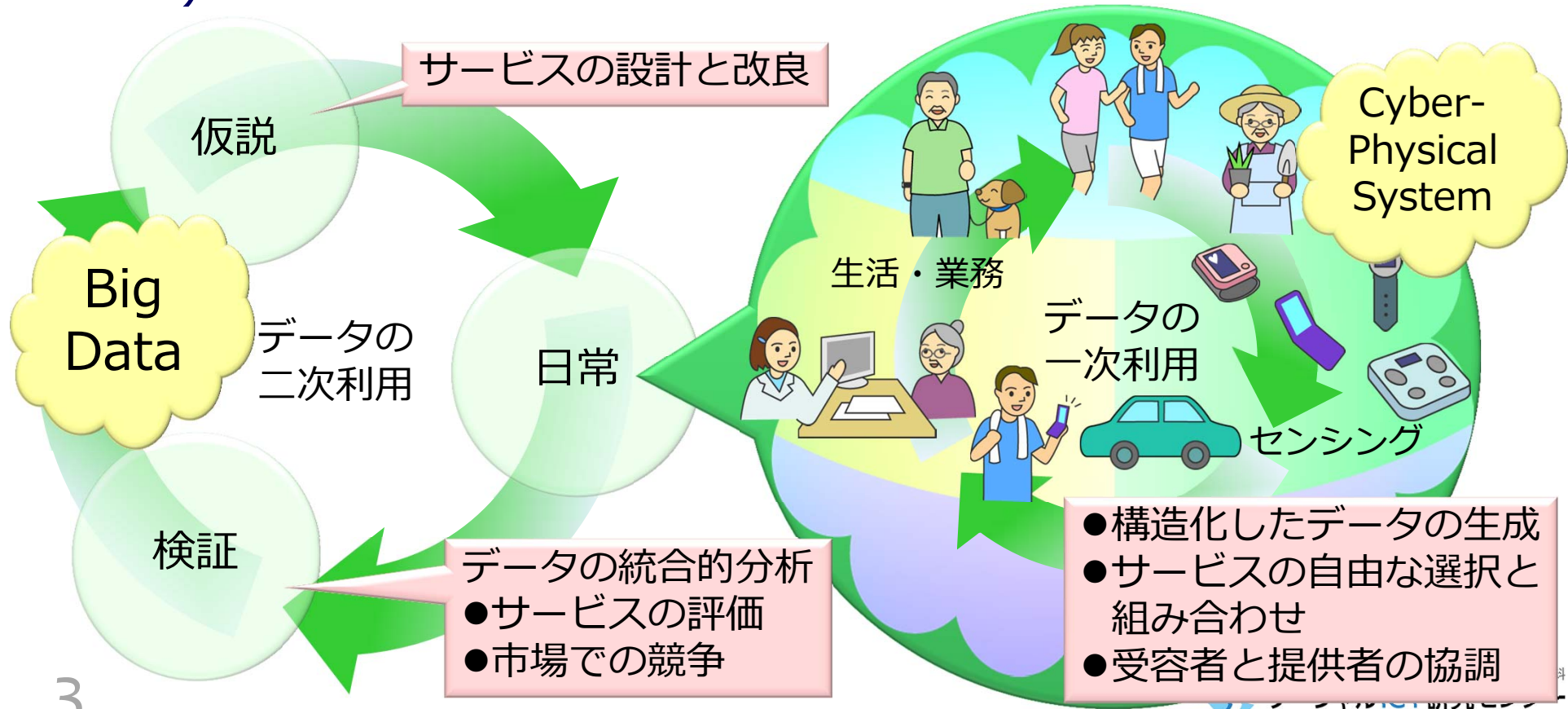
- 本来の意味: 社会的知能
 - ◆ 複雑な社会的関係进行处理する人間の能力
- ここでの意味: 社会の知能(上記を含む)
 - ◆ 社会全体の知的能力
 - ◆ またはそれを高める技術

ソーシャルeサイエンス

生活、産業、行政、
医療、etc.

社会と融合したeサイエンス

- 社会が定常的に生成するデータや知識を用い、社会の機能と融合した大小の仮説検証サイクル
- データの意味的構造化と相互連携によって一次(リアルタイム)利用と二次利用の両方における有用性を高める



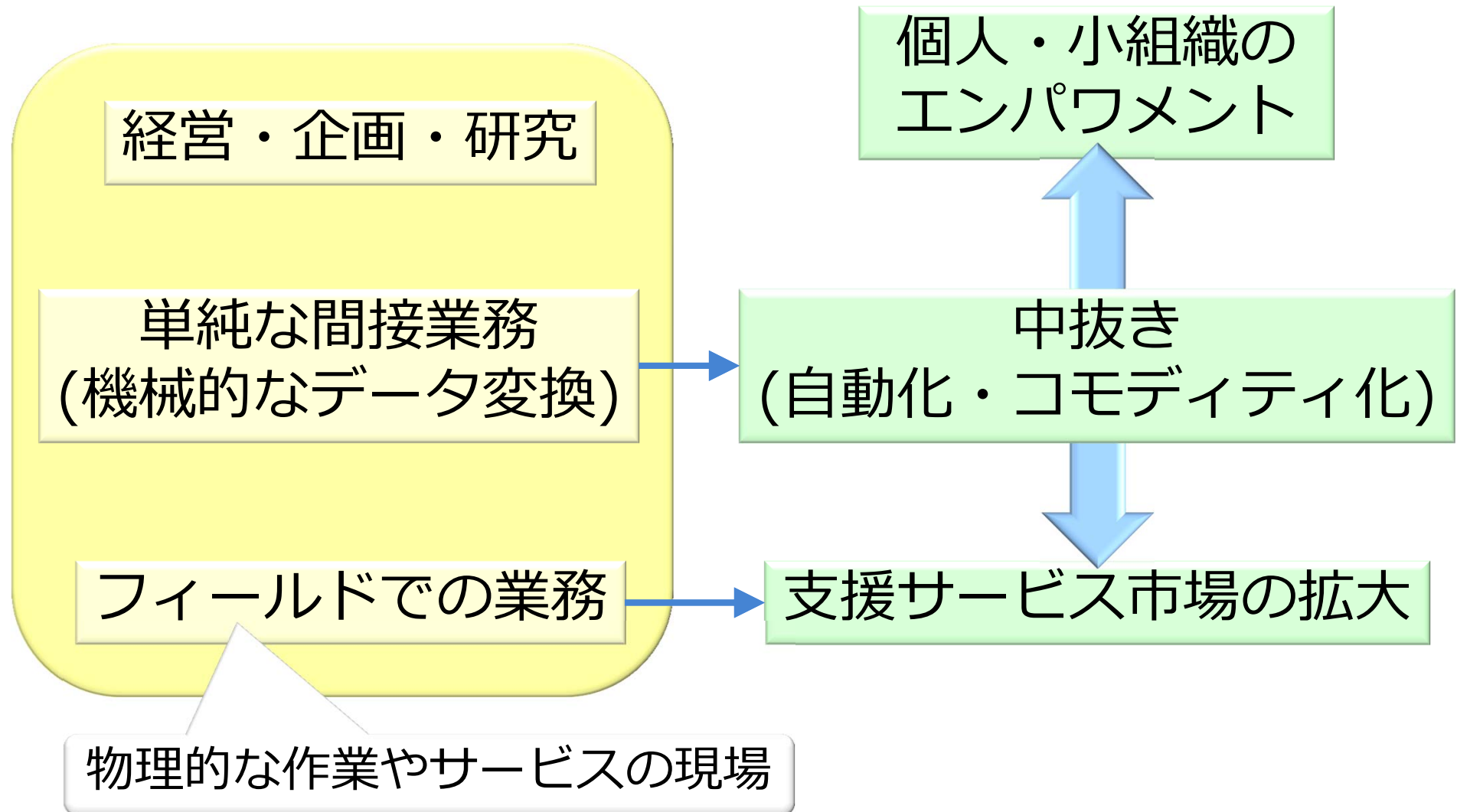
ソーシャルサイエンス(続)

- 科学的根拠に基づく社会
 - ◆データの蓄積・共有・再利用
- 参画型・自律分散協調型社会
 - ◆個人・小組織のエンパワメント

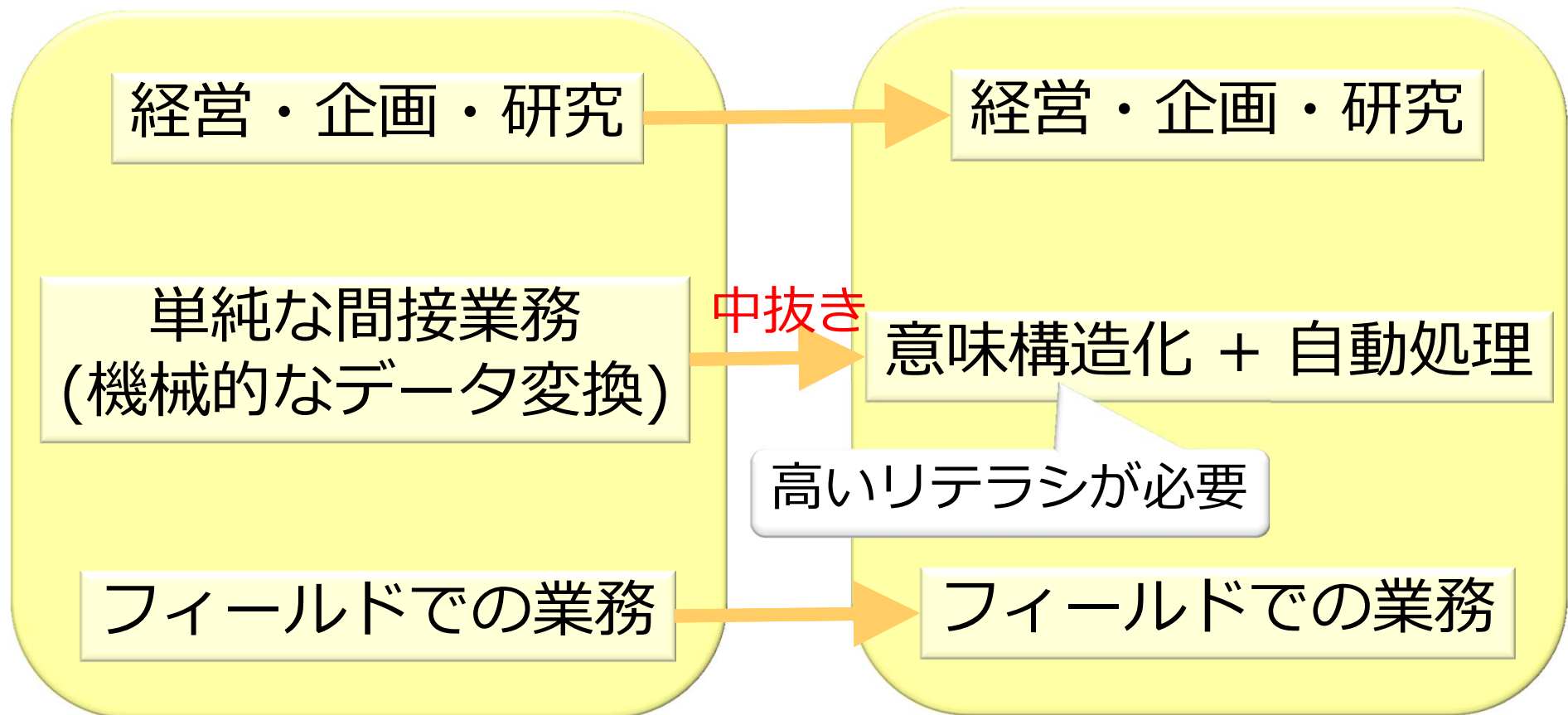
集中→分散

- 汎用大型コンピュータ
 - ◆一部の大型組織だけがコンピュータを所有
- PC
 - ◆分散: 個人のエンパワメント
- インターネット
 - ◆核戦争にも耐える分散システム
- グリッド
 - ◆分散した計算資源の相互連携
- クラウドとスマートフォン
 - ◆一見集中みたいだが分散でもある
- フォグ(ユビキタス?)
 - ◆やっぱり分散

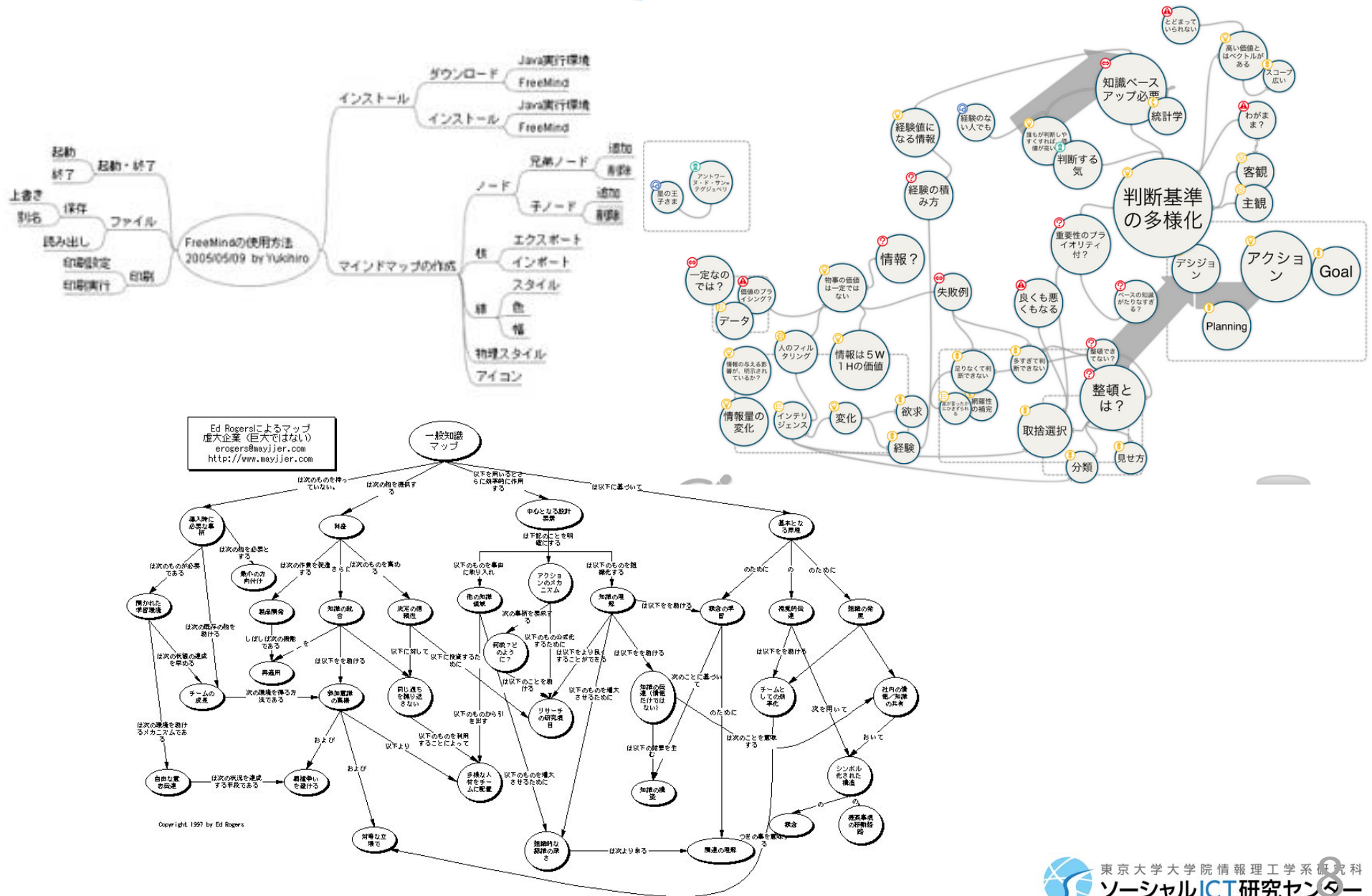
自律分散協調型社会システム



中抜き: 間接業務の消去

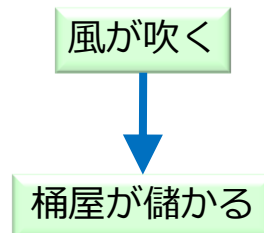


グラフ形式のコンテンツ作成



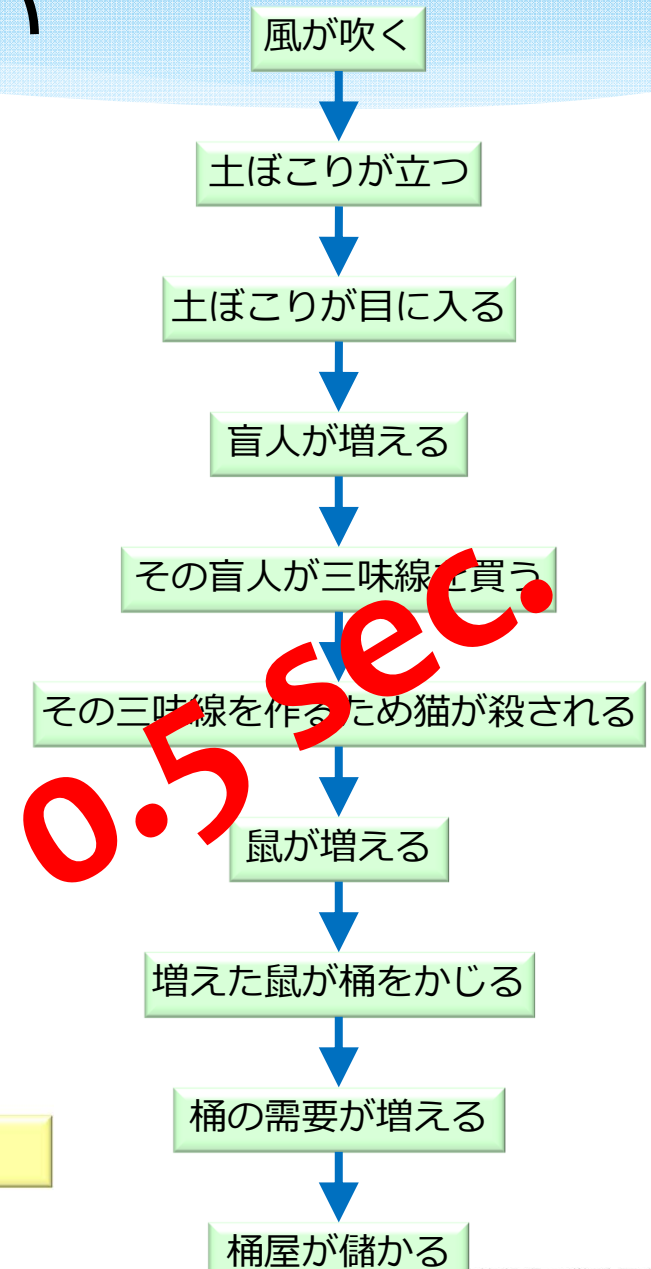
グラフはわかりやすい

風が吹くと土ぼこりが立つ。その土ぼこりが目に入る。それで盲人が増える。その盲人が三味線を買う。ゆえにその三味線を作るため猫が殺される。だから鼠が増える。増えた鼠が桶をかじるので、桶の需要が増える。それで桶屋が儲かる。

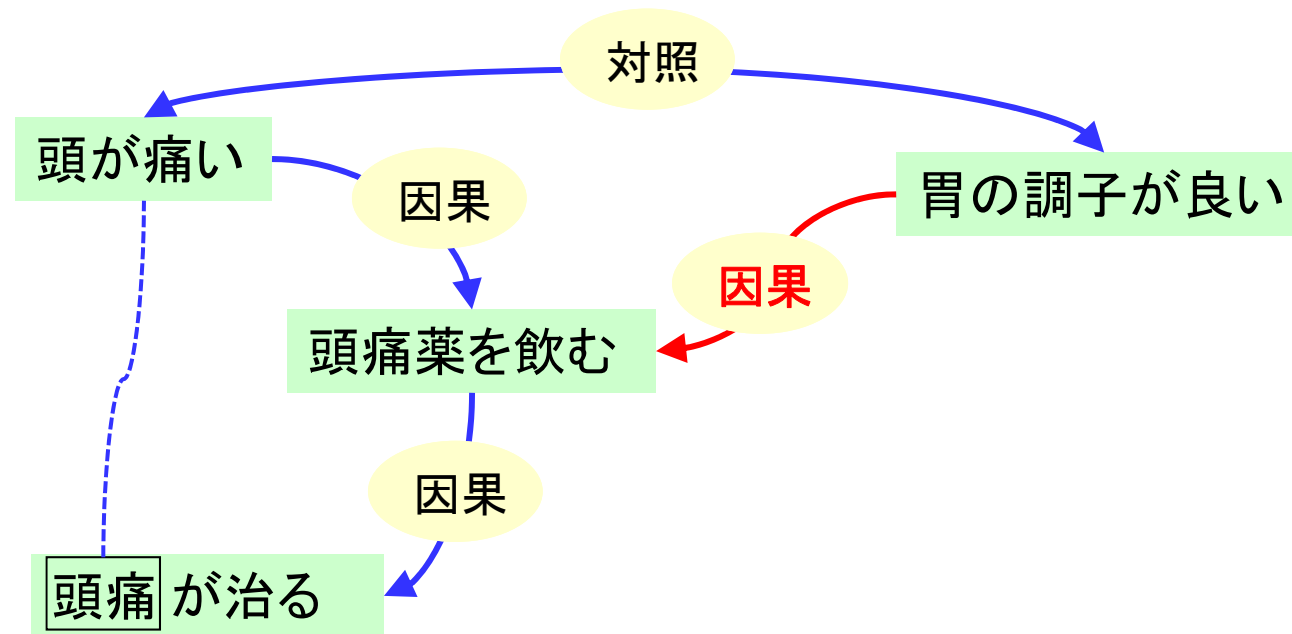


論理的構造がすぐわかる ↓ 加工が容易

要約



グラフは作りやすい(1/2)



グラフは作りやすい(2/2)

- 前頁のグラフと同じ内容のテキスト:

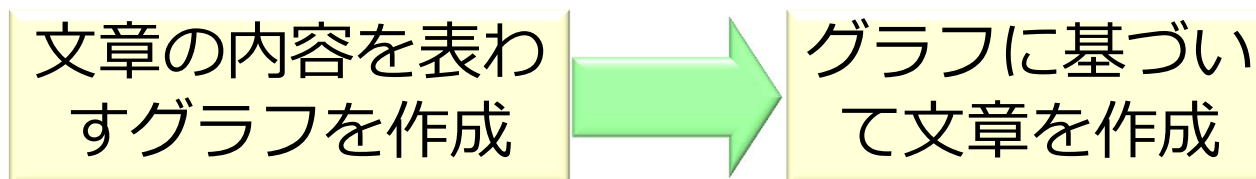
胃の調子良かった。でも頭が痛かった
ので頭痛薬を飲んだら治った。

- 前頁の原因に相当する関係*を反映するように書き換えるのは大変:

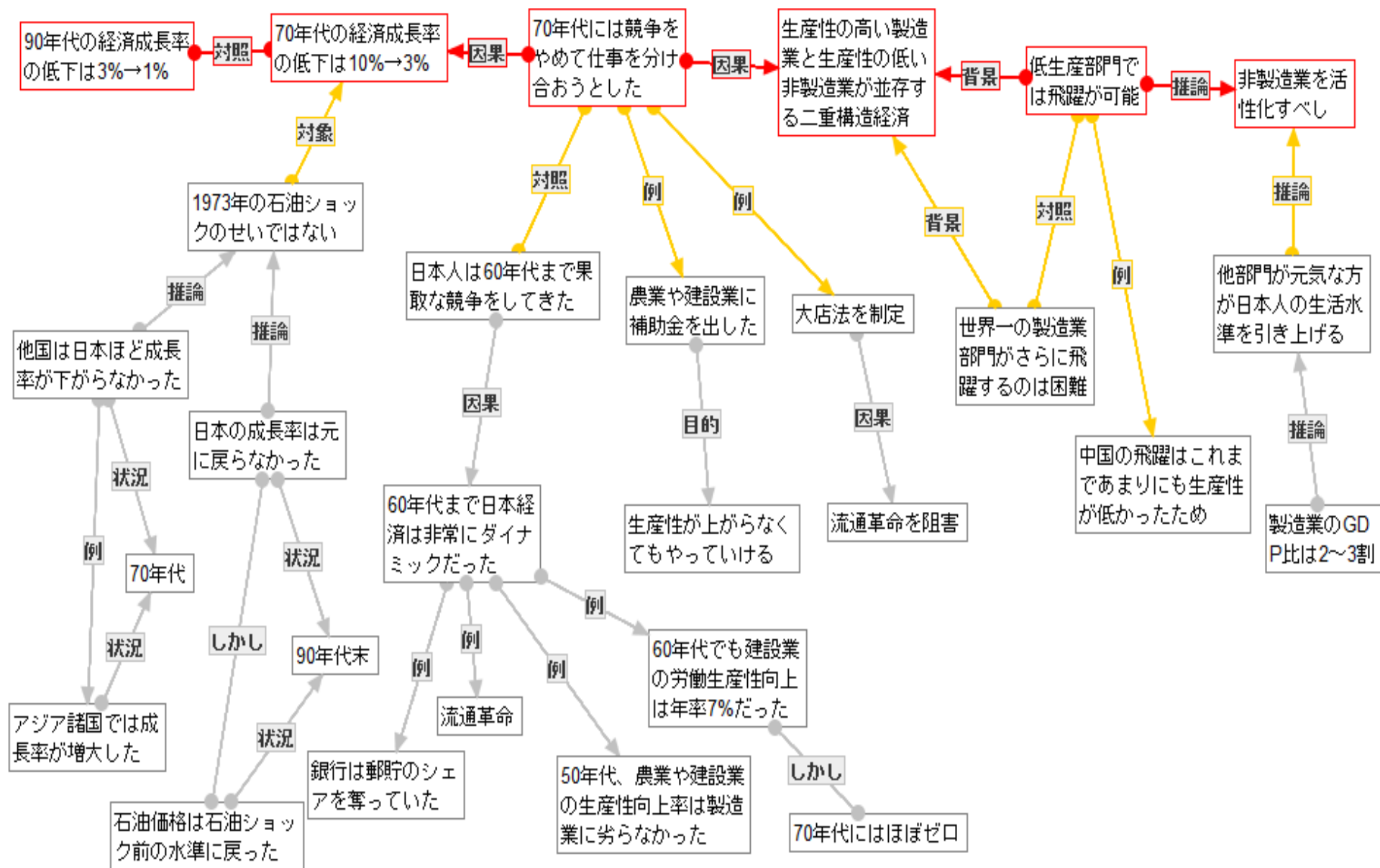
胃の調子良かったが頭が痛かった。
そこで頭痛薬を飲んだら頭痛が治った。

グラフは質が高い

- 八木下ら (1998)の実験



- 見落としが少ない
 - ◆ 含まれる論点が多い
- 考えが深まる
 - ◆ 推論の連鎖が長い



まとめ

- ICTの普及 → 意味構造化の普及 → 中抜き
 - ◆ 自律分散協調型社会
 - * ソーシャルインテリジェンス
 - ◆ フィールドでの業務に重点化するICT
- 意味構造化の普及?
 - ◆ ネットワーク外部性の問題
 - * 他人も使っていないと不便
 - * 鶏と卵
 - ◆ 分散SNSとしてのコモディティ化
 - * グラフの共同編集
 - * サーバ不要 → スケーラブル